

# 平成30年度道路整備促進高知県大会 (主催:道路整備促進期成同盟会高知県地方協議会)

平成30年5月14日、城西館(高知市)において、尾崎正直知事、土森正典県議会議長、平井秀輝四国地方整備局長をはじめ、ご来賓の方々、会員の市町村長、議会議長などとあわせ約200人の参加のもと、「平成30年度道路整備促進高知県大会」を開催しました。

大会では国土交通省道路局環境安全・防災課 五十川泰史道路交通安全対策室長から、「道路行政を取り巻く最近の情勢について」情報提供いただき、元国土交通省道路局長で東京海上日動火災保険(株) 深澤淳志顧問からは、「道は自分でひらく」と題してご講演頂きました。

その後、高速道路から市町村道に至る道路整備と防災対策等の着実な推進や、長期安定的に道路整備及び維持管理を進めるための平成31年度道路関係予算の満額確保と新たな財源の創設の検討など、8つの項目を満場一致で採決しました。

## 大会次第

- (1) 開会
- (2) 主催者挨拶
- (3) 来賓挨拶
  - ・高知県知事 尾崎正直 様
  - ・高知県議会議長 土森正典 様
  - ・国土交通省四国地方整備局長 平井秀輝 様
- (4) 来賓紹介

- (5) 情報提供
  - 「道路行政を取り巻く最近の情勢について」
  - 国土交通省 道路局 環境安全・防災課
  - 道路交通安全対策室長 五十川 泰史 様
- (6) 講演
  - 「道は自分でひらく」
  - 東京海上日動火災保険(株)
  - 顧問 深澤 淳志 様
- (7) 決議採択
- (8) 閉会

## 主催者・来賓挨拶



会長  
池田 洋光

- 地方の道路整備を進める上で大変重要な意味を持つ「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に規定する補助率等の高上げ措置について、今年度以降も継続されることとなり、大変安堵している。
- 本県の直轄事業では、今年度から3年連続で6箇所の開通が予定されており、これらの開通により安全性・利便性などが飛躍的に向上すると期待している。

- 長期安定的に道路整備や維持管理が進められるよう、新たな財源の創設を検討するとともに、国の当初予算における道路関係予算全体の拡大と、整備に必要な予算の確保に向け、今まで以上に会員と一丸となって取り組んでいく。



高知県知事  
尾崎 正直 様

- 本県において道路整備が加速して進んでいるものの、産業振興を図り、地域社会のくらしを支え、大規模災害に備えるために重要な道路の整備がまだまだ必要。
- 整備に必要な予算を確保するためには、地域経済の活性化や防災対策を進める上で真に必要な道路整備を精査し、整備により発現したストック効果を説得力のある形で国に訴えていくことが大切である。

- 県では高知県社会資本整備推進本部会議において、関係部局や県内市町村の情報集約を図り、関係市町村と連携をして、諸施策の推進に必要な道路整備に全力で取り組んでいく。



県議会議長  
土森 正典 様

- 日頃より道路整備に関する要望を市町村の皆さまから多く頂いており、整備の重要性や必要性について十分認識しているところ。
- これまでにも、早期の効果発現を目指した、1. 5車線の道路整備手法や新直轄方式の導入など、道路整備促進に県議会として注力してきた。
- 今後も、県内市町村の皆さまの道路整備に掛ける熱い思いを、県議会として知事をはじめ執行部と一丸となって国に訴えていく。



四国地方整備局長  
平井 秀輝 様

- 今年は瀬戸大橋開通30年、神戸鳴門淡路自動車道全線開通20年を迎え、四国的高速道路ネットワークにとって節目の年である。
- 本四架橋とそれに繋がる高速道路ネットワークの整備は、物流・交流人口の増大など多大な影響を与えている。
- 整備局としても、引き続き、本四架橋と連携して機能する四国8の字ネットワーク等の整備に努めていくので、引き続き皆さまのご支援ご協力をお願いする。

## 情報提供

### 【道路行政を取り巻く最近の情勢について】



国土交通省 道路局  
環境安全・防災課  
道路交通安全対策室長  
五十川 泰史 様

- 地方への重点支援として、社会資本整備総合交付金（交通拠点連携集中支援事業）による支援や交付金の重点配分（地震対策・交通安全対策等）等を引き続き行っていく。
- 全国で点検した橋梁のうち約11%（4.2万橋）が緊急または早期に修繕が必要。そのうち市町村管理橋梁の発生割合は国の約8倍、都道府県政令市の約7倍となっている。予防保全型の修繕が重要である。
- 電線管理者自らも無電柱化を推進することが平成30年4月6日に国土交通大臣決定され、今後、低コスト手法導入等のコスト縮減を図り本格的な無電柱化を推進していく。
- 車両の大型化により増加している許可申請に対応するため、特殊車両通行許可審査を自動システム化することにより、手続きを迅速かつ簡素化する取組みを進めている。
- 生活道路における死亡事故など重大事故の抑制を目指し、路面カラー舗装等による速度抑制対策やライジングボラード設置等による侵入抑制対策を実施し、交通安全対策を進めている。

## 講演

### 【道は自分でひらく】



東京海上日動  
火災保険株式会社  
顧問 深澤 淳志 様

- 高知県はこれから人口減少及び高齢化がますます進み、2045年には50万人を切ると予想されている。こういった状況の中で、どういう地域をつくりあげていくかが課題である。
- 道は必要条件であるが、十分条件ではない。道路は手段であり、使い方や他の施策との連携が重要。上手く使わないと逆効果となる可能性もある。
- 道をつくるのが目的ではなく、どういう地域づくりを目指すかが重要。大切なのはミッションとビジョンを共有し、これらを実現するために道路の活用と使い方を工夫することである。
- 東日本大震災では、三陸縦貫自動車道が重要な役割を果たしており、南海トラフ地震発生時においても、物資輸送と避難に高速道路を中心とした道路は必ず役に立つと考えている。
- 四国8の字ネットワークが完成すれば、拠点都市・隣接地域へのアクセシビリティが大幅に向上する。しかし、便利になったからといって、県外だけに目を向けるのではなく、地域の魅力を伝えて人を呼び込み、地域の衰退に繋げないことが重要。

## 決議



副会長 横山 幾夫

- 決議案を力強く朗読、会員全員の賛同により、道路整備促進期成同盟会高知県地方協議会の決議として採択した。

## 閉会挨拶

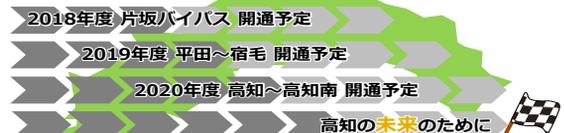


副会長 中平 正宏

- 道路整備の推進により、素晴らしい素材の宝庫である高知県の魅力が何十倍にも高まり、大きな経済効果を生むと考えている。会長をはじめ、会員・各関係機関と一丸となって道路整備の推進に取り組んでいく。

### 四国8の字ネットワーク 3年連続3箇所の開通達成へ

道全協  
こうち



道路整備促進期成同盟会 高知県地方協議会  
(事務局: 高知県土木部道路課)

